

10. 陸・淡水産貝類

陸・淡水産貝類分科会では調査対象を陸、河川、湖沼、および汽水域に生息する貝類とし、陸域を飛沫帯（一部高潮帯）以上、汽水域を河口およびそれより上流とした。したがって、近年減少が指摘されている内湾性のハマグリ、オキシジミなどの貝類は割愛した。しかしながら、河口から内湾へかけての中潮帯に分布するクロヘナタリ、ウマイマイ、マゴコロガイについては、大陸沿岸系種の遺存固有として全国の研究者から注目され、情報が求められているため、特に福岡県版レッドデータブックに取り上げることとした。

日本には陸産貝類918種（環境庁，1991，1993）、淡水産貝類は汽水域の範囲の取り方で大きく変わるが、約130種が生息する。福岡県には陸産貝類115種、淡水産貝類30種、合計145種が生息している。陸・淡水産貝類分科会では「福岡県産貝類目録」（高橋・岡本，1969）、同訂補資料（岡本，1977）および「福岡県陸淡水産貝類分布調査」資料に基づき、レッドデータブック検討対象種として陸産貝類16種、淡水産貝類12種、汽水産貝類26種を選びだした。これらの種について文献および標本から1977年以前の生息地を調べ、1998年、1999年度の野外調査で生息の確認を行った。調査過程で、これまで福岡県での生息が確認されていなかったノミガイ、ヤマボタルガイ、カタマメマイマイなどが発見されたので検討対象種に追加した。このため、最終的な検討対象種は陸産貝類21種、淡水産貝類15種、汽水産貝類29種となった。

カテゴリーと選定基準

陸・淡水産貝類では県カテゴリーとして絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧の4カテゴリーを設ける。生息状況の調査が定性的であるため、1970年以前と現在の生息地数の比較、生息地の規模（面積）、生息密度、生息地周辺の開発状況などに基づきランクづけを行った。

絶滅：かつては福岡県に生息することが確認されていたが、近年長期（20年程度）にわたって生息が確認されず、本県では絶滅したと考えられる種類。

絶滅危惧Ⅰ類：個体群の規模が極めて小さい、生息環境が極めて限定されている、生息地の環境が改変の危機に直面しているなどの状況から、ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い種類。

絶滅危惧Ⅱ類：個体群の規模がかなり小さい、生息環境がかなり限定されている、生息地の大部分で環境が悪化しているなどの状況から、放置すれば近い将来に絶滅危惧Ⅰ類へ移行することが確実な種類。

準絶滅危惧：個体群の規模が小さい、生息環境が限定されている、生息地の多くで環境が悪化しているなどの状況から、放置すれば近い将来に絶滅危惧Ⅱ類へ移行することが確実な種類。

なお、それぞれの種の全国規模でみたときのカテゴリーとして、環境庁レッドリスト（2000）におけるカテゴリーを（環境庁）、和田ほか（1996）のカテゴリーを（WWFJ）としてあげた。

（松隈明彦）

調査協力者・生息確認者：東 正雄，魚住賢司，岡本正豊，菊池泰二，是永公男，佐藤勝義，澄川精吾，高橋五郎，茅野 博，辻 忠吾，中山駿馬，野田 栄，広田俊実，福田真杉，本多庚午，松隈明彦，松隈裕二，松下愛子，山下博由，山本愛三

調査を行うに当たり、山下博由氏（東京都）、岡本正豊氏（千葉県）、福田宏氏（岡山大学）、一宮友勝氏（水資源開発公団筑後川開発局）に御助言、御協力をいただいた。記して深謝する。

絶滅 (福岡県)

カタヤマガイ

吸腔目 イツマデガイ科 Pomatiopsidae

学名: *Oncomelania nosophora* (Robson, 1915)

別名: ミヤイリガイ

カテゴリー: 絶滅危惧 I 類 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: かつては久留米市長門石, 宮ノ陣, 西小森野, 小都市, 大刀洗町など筑後川流域に広く分布し, 日本住血吸虫の中間宿主として恐れられた (小林, 1998)。火炎放射器や薬品を用いた駆除, 水路や畦, 河川敷の整備により, 福岡県では1983年5月に久留米市宮ノ陣町荒瀬新宝満川河川敷 (新宝満川右岸低水敷) で2個体, 佐賀県では1981年12月から1982年3月にかけて鳥栖市江島で227個体が確認されたのを最後として, 生息は確認されていない。このため本種は, 筑後川流域では人為的に絶滅させられたと考えられる (塘, 1986 a, b)。

分類・形態: 螺塔は細く高く, 8階。殻高6~10mm,

殻径2~3mm。各螺層は少し膨らみ, 縫合はくぼむ。螺層は淡緑褐色, 弱い成長線を除きほぼ平滑で光沢がある。成貝では殻質やや厚く不透明であるが, 若い貝では薄く, 軸心が透けて見える。殻口は卵形, 成貝・若い貝とも殻口やや内側が肥厚し, 縁は濃褐色に彩られる。蓋は角質で少旋型。

分布: (県内) 絶滅したと考えられる。

(県外) かつては茨城, 千葉, 山梨, 静岡, 岡山, 広島, 佐賀。現在では千葉, 山梨を除き絶滅した。

生活史・生態・生息地: 水田や溝, 湿地の浅い水底にすむ。畦道の石垣のすき間や石の下, 溝に接する枯れ草の根の間で冬眠する。産卵は5, 6月。

(澄川, 本多)

絶滅 (福岡県)

オキヒラシイノミ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名: *Pythia cecillei* (Philippi, 1847)

カテゴリー: なし (環境庁), 絶滅寸前 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 福岡市西区今津瑞梅寺川河口, 東区和白で採集されたことがある。和白では現在, 堤防の内側は畑となり, 水路内の水は完全に淡水のみとなっている。最近50年近く生息が確認されていないことから福岡県では絶滅したと思われる。

分類・形態: 殻長21mm, 殻径13mm。殻は殻頂部がとがった楕円形, やや偏平。殻表は若い個体では黒褐色, 老成した個体では褐色。体層に4~5本の黒色螺状色帯をもつ。老成した個体の体層では色帯は不規則な雲状斑となる。殻皮は厚い。内唇に2歯, 軸唇に1歯, 外唇に4~5歯をもつ。上方の内唇歯は下方の歯より小さく, 不規則な台形。外唇歯は連なって畝状となり, 軸唇歯の上方に達する。内外唇歯, 軸

唇歯は白色。

ヒメヒラシイノミは小型で沖縄以南に分布する。体層はオキヒラシイノミより短い雨滴形で次体層以上の螺層は膨らまない。マダラヒラシイノミは次体層以上の螺層が膨らまず, 螺塔は円錐形。クロヒラシイノミはオキヒラシイノミより大きく, 殻表が黒褐色, あるいは雲状斑。内唇歯, 軸唇歯は淡褐色で強固。

分布: (県内) 福岡市西区瑞梅寺川河口, 東区和白は絶滅したものと思われる。

(県外) 長崎県北松浦郡福島町, 大村湾沿岸

(国外) 香港 (基準産地), 華南沿岸

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ヤマキサゴ

Patellogastropoda目 ヤマキサゴ科 Helicinidae

学名: *Waldemaria japonica* (A. Adams, 1861)

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 今回の調査によって、本種が1950年代に確認された生息地で現在も生息していることがわかったが、生息地、個体数ともに極めて少なく、近い将来において絶滅する可能性が極めて高い。

分類・形態: 殻は低い円錐形、厚質、堅固。殻高1cm、殻径1.2cm。半月形の石灰質の蓋をもつ。殻内部では螺層間の内壁がなくなり、軟体部を収める一つの大きな空間を作っている。臍孔は厚い滑層で覆われ

る。

分布: (県内) 英彦山, 北九州市小倉南区 (平尾台, 千仏, 竜ヶ鼻), 甘木市古処山, 嘉穂町 (県外) 本州 (青森~山口), 四国, 九州 (熊本, 宮崎) に分布

生活史・生態・生息地: 林の中の落ち葉の下に生息。地上棲であるが雨後は木に上る性質がある。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ヤマグルマガイ

Patellogastropoda目 ヤマグルマガイ科 Spirostomatidae

学名: *Spirostoma japonicum japonicum* (A. Adams, 1867)

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 本種は福岡市と若杉山で採集された記録があるが、いずれも50年以上前と採集記録が古く、標本が残されていない。今回の若杉山の調査では生息が確認されなかった。周辺の大分県, 山口県には生息地が多く、普通に見られる。県内で生息地が少ない理由は不明である。生息地が限定され、極めて情報の乏しい種である。

分類・形態: 殻は小型 (殻幅1.2cm), 平低でほぼ平巻き。殻表は平滑で光沢がある。蓋は円錐状。種子島, 屋久島の小型の個体をヒメヤマグルマとして本種と区別したことがあるが、同種と考えられる。

分布: (県内) 篠栗町若杉山, 福岡市早良区 (県外) 近畿地方から九州

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ミヤザキムシオイ

Patellogastropoda目 ムシオイガイ科 Alycaeidae

学名: *Chamalycaeus miyazakii* Takahashi & T. Habe, 1973

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 福岡県の固有種である。分布は極めて局所的で、個体数も少ない。

分類・形態: 殻は小型。螺管は体層と次体層の間に広いすき間がある。殻口は円形, 蓋は角質で半透明。

分布: (県内) 福岡市東区, 久山町, 古賀市, 若宮

町, 福岡町, 篠栗町若杉山

生活史・生態・生息地: 林の中の落ち葉の下に生息。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

オオクリイロカワザンショウ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Assimineidae

学名: *Angustassiminea castanea kyushuensis* S. & T. Habe, 1983

カテゴリー: なし (環境庁), 絶滅寸前 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 遠賀川河口を基準産地とする貝であり, 響灘 (遠賀川河口) や有明海湾奥部 (福岡県, 佐賀県) でしか生息が確認されていない (和田ほか, 1999)。基準産地の個体群は護岸工事により消滅した。基準産地近くの護岸満潮線付近のヨシ群落および自然のヨシ群落にやや大規模な個体群が残されているが, 開発により生息地が失われる可能性がある。玄界灘, 有明海沿岸地域とも生息域が満潮線付近のヨシ群落に限られるため, 埋立などによる生息地の消滅が危惧される。

分類・形態: 外形は円錐形, 褐色でクリイロカワザンショウに似るが, クリイロカワザンショウに比べて大型。殻高8mm, 殻径5mm程度。縫合下に細い螺肋がある。

分布: (県内) 玄海町釣川河口, 遠賀町西川堤防, 柳川市沖端川河口

(県外) 九州 (佐賀)

生活史・生態・生息地: 河口の潮間帯上部, ヨシ群落の泥土の表面やヨシの茎の上。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ムシヤドリカワザンショウ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Assimineidae

学名: *Angustassiminea parasitologica* Kuroda, 1958

カテゴリー: なし (環境庁), 危険 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 釣川, 遠賀川で生息が報告されていたが, 釣川では護岸工事によりヨシ群落が消滅しており, 今回の調査では生息は確認できなかった。

分類・形態: 外形は円錐形。クリイロカワザンショウより太く, 殻高4.2mm, 殻径3mm。縫合下に淡色帯がある。

分布: (県内) 玄海町釣川河口, 遠賀町西川堤防, 大和町中棚町, 矢部川津留橋上流右岸, 柳川市佃町

塩塚川番所橋上流右岸

(県外) 本州~九州。兵庫県城崎市来日円山川 (基準産地)

生活史・生態・生息地: 河口のヨシ群落の泥土の表面やヨシの茎の上。

肺吸虫の中間宿主としてムシヤドリカワザンショウの名が与えられたが, 寄生率は極めて低いといわれる。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ミズゴマツボ

吸腔目 ミズゴマツボ科 Stenothyridae

学名: *Stenothyra glabra* A. Adams, 1861

カテゴリー: なし (環境庁), 絶滅寸前 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 生息環境が河川の河口付近に限定されるため, 護岸工事や河川改修工事などで生息地が破壊されやすい。

分類・形態: 体層はよく膨れて大きい。多少背腹に偏圧され, 殻口は少しはずれていて小さい。殻色は黄か緑がかった褐色。殻高6mm。

分布: (県内) 福岡市中央区 (六本松, 城西橋), 津屋崎町塩浜, 小郡市, 高田町渡瀬, 矢部川尻永田開, 柳川市 (沖端川河口, 橋本)

(県外) 全国に分布

生活史・生態・生息地: 河口の藻の中に生息。

(澄川・本多)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ヒメマルマメタニシ

吸腔目 エゾマメタニシ科 Alycaeidae

学名: *Gabbia kiusiuensis* (S. Hirase, 1927)

カテゴリー: 絶滅危惧 II 類 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 最近死殻が海岸の打ち上げで発見され、付近に流入する小河川の中流域にわずかに生息することが予想されている。それ以外の県内の分布の記録は40年以上前のものが1例あるのみである。

分類・形態: 殻は薄質、半透明、薄い黄緑色。各螺

層はよく膨らむ。蓋は石灰質で厚い。殻高約5mm。
分布: (県内) 高田町渡瀬, 福岡町今川河口付近 (海岸打ち上げ)

(県外) 本州 (岡山), 四国, 九州

生活史・生態・生息地: 水田や池に生息。

(澄川・本多)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

シマヘナタリ

吸腔目 ウミニナ科 Potamididae

学名: *Cerithidea (Cerithidea) ornata* A. Adams, 1863

カテゴリー: なし (環境庁), 絶滅寸前(WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 朝鮮半島から中国大陸沿岸に分布する種の遺存固有と考えられる生物地理学的に重要な種であり、国内での分布が瀬戸内海、有明海に限られている。過去に記録のある沖端川、塩塚川などでは近年採集されず、絶滅した可能性が高い。矢部川津留橋上流の個体群は規模が小さく、絶滅が危惧される。

分類・形態: 殻は細長い円錐形。縦肋は明らかであ

るが、螺肋は極めて弱い。殻表の彫刻がクロヘナタリに似るが、殻口外唇が反転することで区別される。

分布: (県内) 大和町西津留矢部川津留橋

(県外) 有明海, 瀬戸内海

(国外) 朝鮮半島, 中国大陸沿岸

生活史・生態・生息地: 内湾や河口のヨシ群落の泥土上で生活する。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

クロヘナタリ

吸腔目 ウミニナ科 Potamididae

学名: *Cerithidea (Cerithidea) largillierti* (Philippi, 1848)

カテゴリー: なし (環境庁), 絶滅寸前(WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 泥の多い干潟や河口のヨシ群落に生活するが、近年の堤防工事などに伴い生活場所が激減している。県内では矢部川津留橋付近に残ったヨシ群落で生息が確認されたが、分布が局所的であり絶滅が危惧される。過去に記録のある沖端川、塩塚川などでは近年採集されず、絶滅した可能性が高い。

分類・形態: 殻は細長い円錐形。顕著な縦肋をもつが、螺肋は弱い。殻口外唇は反転しない。フトヘナ

タリは顕著な螺肋と縦肋が交わり、殻表は粗い布目状。

分布: (県内) 大和町西津留矢部川津留橋

(県外) 瀬戸内海, 有明海

(国外) 朝鮮半島, 中国大陸沿岸

生活史・生態・生息地: 内湾や河口のヨシ群落の泥土の表面に転がって生活する。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ヘナタリ

吸腔目 ウミナナ科 Potamididae

学名: *Cerithidea (Cerithideopsilla) cingulata* (Gmelin, 1791)

カテゴリー: なし (環境庁), 危険 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: かつては内湾最奥部の泥底上に普通に見られたが, 近年は生貝を見ることがほとんどない。今回の調査においても津屋崎内海湾奥部で死殻しか発見できなかった。

分類・形態: 殻は細長い円錐形で, 顆粒を具えた3, 4本の強い螺肋がある。肋は黄白色で, 肋間は黒い。成貝の殻口は楕円形で, 外側へ少し反り返る。

分布: (県内) 玄界灘, 博多湾, 津屋崎内海湾奥部, 周防灘

(県外) 北海道から九州

(国外) 中国大陸沿岸から熱帯太平洋

生活史・生態・生息地: 内湾湾奥部潮間帯中部の泥土にすむ。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

タケノコカワニナ

吸腔目 トウガタカワニナ科 Thiaridae

学名: *Stenomelania rufescens* (Martens, 1860)

カテゴリー: なし (環境庁), 絶滅寸前 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 福岡市六本松の産地は住宅化に伴う水路のコンクリート化で消滅した。これまで知られている産地は局限されており, 環境の悪化で容易に絶滅へ至ると危惧されていたが, 今回, 新たに大牟田市で生息が確認された。

分類・形態: 成貝では殻頂部が失われる。縫合下に

弱い螺状溝がある。軸唇は少し厚くなる。殻高約6.5 cm。

分布: (県内) 岡垣町汐入川, 大牟田市隈川昭和開
(県外) 本州, 四国, 九州

生活史・生態・生息地: 多少海水の混じる河口や潟に生息。

(澄川, 本多)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

クリイロコミミガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名: *Laemodonta siamensis* Morelet, 1875

カテゴリー: なし (環境庁), 日本本土で危険 (WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由: 県内ではこれまで博多湾 (福岡市西公園) のほか, 福岡市西区今津, 中央区樋井川, 東区箱崎汐井浜, 志賀島, 玄海町鐘崎, 福岡町今川河口, 玄海町釣川河口で採集の記録がある。生息域が高潮帯の礫間に限られるため, 各地域とも個体群の規模が小さい。今回の調査では行橋市および福岡市西区瑞梅寺川河口ヨシ群落礫間で生息が確認されただけである。西公園下海岸の生息地は埋立により現在では完全に消滅している。博多湾内の各産地では絶滅していると思われる。

分類・形態: 殻は殻頂がわずかにとがった卵形。殻表にやや強い螺状脈がある。内唇に2歯, 軸唇に1歯,

外唇に1歯をもつ。臍孔は狭いが明瞭。外唇の歯状突起が1本である点でウスコミミガイに似るが, 外形が卵形で殻頂が侵食されやすい点で区別される。

分布: (県内) 福岡市西区瑞梅寺川河口, 東区志賀島, 福岡町今川河口, 玄海町 (鐘崎, 釣川河口), 行橋市今井祓川沓尾橋上流左岸

(県外) 三河湾, 伊勢湾, 瀬戸内海, 有明海, 沖縄
(国外) 台湾, ポリネシア, メラネシア, フィリピン, ボルネオ, 北オーストラリア, インド洋の島々

生活史・生態・生息地: 河口の高潮帯の礫間や流木の下に分布。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

キヌカツギハマシイノミ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名: *Melampus singaporensis* Pfeiffer, 1855

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: これまで福岡市樋井川, 和白, 志賀島, 玄海町神湊釣川河口, 柳川市沖端川河口, 塩塚川河口右岸で採集された記録があるが, 今回の調査では前原市千早新田, 福岡市西区瑞梅寺川河口および柳川市佃町番所塩塚川番所橋付近で確認されただけである。博多湾東部および玄界灘の樋井川, 和白, 志賀島, 釣川では河口や湾奥のヨシ群落が宅地化や河川改修で消滅したことにより絶滅したと思われる。前原市, 博多湾西部, 有明海沿岸でも, 瑞梅寺川河口を除き, 生息範囲が極めて狭く, 個体数も少ないことから, 絶滅が危惧される。**分類・形態:** 殻は楕円形で, 殻頂部はとがらない。殻高10mm, 殻径7mm。縫合下に8本程度の細い螺状脈がある。体層に6褐色帯がある。内唇下部に2歯(下の歯は弱い), 軸唇に1歯, 外唇内側に6, 7歯をも

つ。殻表は薄い殻皮を被り光沢がない。ハマシイノミガイは色帯が幅広く, 少なく, 殻頂部がややとがり, 殻表は平滑で光沢を有する。

分布: (県内) 前原市千早新田, 福岡市(瑞梅寺川河口, 樋井川, 和白, 志賀島), 玄海町神湊釣川河口, 北九州市小倉南区(下曾根曾根干潟北九州空港南東, 曾根干潟東端河口), 行橋市今井祓川沓尾橋上流左岸, 吉富町, 柳川市(佃町番所塩塚川番所橋付近, 沖端川河口, 塩塚川河口右岸)

(県外) 伊勢湾, 長崎

(国外) 台湾, 中国大陸沿岸, フィリピン, シンガポール, インドネシア

生活史・生態・生息地: 湾奥や河口付近の高潮帯のヨシ群落の流木の下や礫間に生息。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

シイノミミミガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名: *Cassidula plecotrematoides japonica* Moellendorff, 1901

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 県内ではこれまで福岡市西区(瑞梅寺川, 今宿, 姪浜小戸, 能古島), 中央区(地行, 樋井川), 東区和白, 津屋崎町(塩浜, 恋の浦), 福岡町で採集の記録があるが, 津屋崎町恋の浦を除き, 27年以上前の記録である。福岡市姪浜, 地行, 樋井川, 津屋崎町塩浜はいずれも宅地化が進み, シイノミミミガイが生息できる環境は残されていない。かつては各地に分布した種類であるが, 生息域が潮間帯上部の汽水域に限定されるため, 環境の変化により激減したと思われる。全国的に見ても本種は日本産オカミミガイ科中で最も著しい絶滅傾向にあるといわれる。

分類・形態: 殻は殻頂がとがった紡錘形。殻高15mm, 殻径9mm。殻表は縫合下に弱い数本の螺脈があるほかは平滑。殻表全面が褐色。内唇に2歯, 軸唇に1歯, 外唇に1歯をもつ。成貝では外唇がやや反転, 内側が肥厚し, 軸唇へ続く。

分布: (県内) 福岡市能古島, 福岡町(海岸打ち上げ), 津屋崎町恋の浦

(県外) 本州~九州

生活史・生態・生息地: 内湾の潮間帯最上部, 礫間や石垣の割れ目の奥に生息。

(松隈)

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

ナラビオカミミガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名：*Auriculastra duplicata* (Pfeiffer, 1854)

カテゴリー：なし（環境庁），危険(WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由：県内ではこれまで柳川市塩塚川での採集記録および標本が知られていた。今回の調査で前原市，福岡市西区，曾根干潟，吉富町，大和町，柳川市のヨシ群落の礫間や流木下で生息が確認された。各産地とも本種がその下で生息する流木や礫が少ないため生息面積は狭く，個体数も少ない。曾根干潟では泥域の礫の下に普通に見られるが，ヨシ群落の規模が極めて小さく，絶滅が危惧される。

分類・形態：殻は紡錘形。殻高10mm，殻径6mm程度。殻表は成長脈を除き平滑で光沢がある。内唇下部に強い1歯，軸唇に接近して2歯，外唇内側に低い1歯を持つ。

紡錘形の外形はオカミミガイに似るが，はるかに小型で，内唇の歯はオカミミガイより強く，殻表は平滑，縫合下付近に小顆粒列を持たない点で明瞭に区別される。

分布：（県内）前原市千早新田，福岡市西区瑞梅寺川河口，曾根干潟，吉富町河口，柳川市（塩塚川左岸，佃町番所塩塚川番所橋），大和町西津留矢部川津留橋

（県外）愛媛県宇和島市，長崎

生活史・生態・生息地：河口の潮間帯上部，ヨシ群落の流木や石の下。

（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

ウミマイマイ

有肺目 ウミマイマイ科 Amphibolidae

学名：*Salinator takii* Kuroda, 1928

カテゴリー：なし（環境庁），絶滅寸前(WWFJ)

生息状況・危機の状況・選定理由：大牟田市の潮間帯を模式産地とするが，模式産地では今回の調査では生息を確認できなかった。沖端川，矢部川河口周辺に生息するが個体数は極めて少ない。有明海の固有種で瀬戸内海に移入していることが知られている海生の有肺類（マイマイの仲間）という特異な動物であり，有明海を特徴づける重要な生物として保護が望まれる。

分類・形態：殻径7mm，殻高6mm程度の小型で，よく

膨らんだマイマイ形。臍孔は深い。蓋を持つ。

分布：（県内）大牟田市黒崎，柳川市沖ノ端，大和町永治矢部川河口左岸

（県外）有明海，瀬戸内海（福山市，有明海からの移入）

生活史・生態・生息地：湾奥や河口の潮間帯中部の泥の上。

（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

インドヒラマキガイ

有肺目 ヒラマキガイ科 Planorbidae

学名：*Indoplanorbis exustus* (Deshayes, 1832)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：インド・東南アジア地域からの外来種。熱帯魚の水槽の水草について国内へ入ったといわれる。これまでのところ県内の分布の情報が極めて乏しく，全国的にも情報が少ない種である。

分類・形態：殻は大きくて太い螺管を持つ。殻頂部はややくぼむ。螺層周縁は丸い。軟体は赤色。

分布：（県内）北九州市八幡西区楠橋唐熊笹尾川

（県外）静岡，愛知など

（国外）インド，東南アジア

生活史・生態・生息地：池沼の水草上に生息。熱帯魚とともに国内へ持ち込まれ，水槽壁面の清掃に利用されていたものが逃げ出し野生化した。越冬が認められている。

（澄川，本多）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

ヒラマキミズマイマイ

有肺目 ヒラマキガイ科 Planorbidae

学名：*Gyraulus chinensis spirillus* (Gould, 1859)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：県内ではこれまで柳川市で採集が報告されただけの希少種である。情報が乏しいが、分布が局限され、個体数も少ないため絶滅が危惧される。

分類・形態：殻は半透明、薄質、著しく偏平で円盤状。体層周縁に弱い角があり、しばしばそれに殻皮毛を生じる。殻幅約7.5mm。殻皮毛を生じた個体に

対してトウキョウヒラマキという名称が付けられている。

分布：（県内）柳川市新開
（県外）北海道～九州

生活史・生態・生息地：池沼の水草上に生息。
（澄川・本多）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

レンズヒラマキガイ

有肺目 ヒラマキガイ科 Planorbidae

学名：*Hippeutis cantori* (Benson, 1850)

別名：クルマヒラマキガイ

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：本種は1950年代には福岡市や小郡市内の川や水路で見かけられたが、最近では福岡市で確認されただけである。佐賀県では鳥栖市南部、久留米市との境界近くの河川の中州や寄州の水草に付着している個体が1999年に確認されたが、筑後川の福岡県側ではまだ発見されていない。

分類・形態：殻は偏平。殻底は平坦で、周縁は角ばる。螺塔は低く、わずかに張り出し丸い。殻幅は約1cm。臍孔は殻幅の約3分の1。

分布：（県内）福岡市早良区城西付近、中央区舞鶴公園と大濠公園の境、鳥飼、小郡市八坂、福岡町北原。

（県外）本州、九州

（国外）インド（模式産地）

生活史・生態・生息地：原産地はインド。熱帯魚店や水槽の水草に付いて移入された。各地の小河川や水路の水草に付着して生活する。

（澄川・本多）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

サナギガイ

有肺目 サナギガイ科 Pupillidae

学名：*Pupilla cryptodon* (Heude, 1880)

カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：全国的に見て分布は局地的である。福岡市西区西浦では海岸道路の開通で1985年に確認されていた生息地が消滅した。県内では自然状態の砂浜の海浜植物群落が残されている所が少なく、志摩町幣の浜は貴重な存在である。**分類・形態**：殻は淡褐色、死殻は白色。殻高3mm程度、俵形。成貝では殻口は丸く、体層から離れ、反転する。内唇に接近した2歯、軸唇に1歯、外唇内側

に離れた2歯をもつ。

分布：（県内）志摩町小金丸、福岡市西区西浦
（県外）本州（和歌山）、四国（香川）、九州（長崎）

（国外）中国。中国江蘇省淮安（模式産地）

生活史・生態・生息地：砂浜の潮上帯から松林へ続く斜面のハマゴウ-コウボウムギ群落の落ち葉の下。
（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

ノミガイ

有肺目 ノミガイ科 Tornatellidae

学名：*Tornatellides boeningi* (Schmacher & Boettger, 1891)

カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：今回の調査で初めて志摩町で生息が確認された。本種はこれまで本州中部から沖縄県にかけての海岸部に散在的に生息することが知られていたが、県内での生息は確認されていなかった。今回の発見は日本海沿岸での初の記録である。

今回生息が確認された産地はごく狭く、個体数も極めて少ないことから、開発により容易に生息環境が破壊され、絶滅へ追い込まれる可能性がある。

分類・形態：殻は殻高の高い円錐形、褐色。殻高3mm、殻径1.5mm。殻口内唇に1歯をもつ。外唇は薄い。

分布：（県内）志摩町

（県外）本州（伊豆半島、紀伊半島南岸）、九州（大分、鹿児島、沖縄）

生活史・生態・生息地：砂丘陸側斜面の木の幹、小枝、葉に付く。

（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

ヤマボタルガイ

有肺目 ヤマボタルガイ科 Cionellidae

学名：*Cionella lubrica* (Mueller, 1774)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：今回の調査で初めて志摩町で生息が確認された。

今回生息が確認された産地は局所的で個体数も少ないことから、周辺が開発されれば容易に生息環境が破壊され、絶滅へ追い込まれる可能性がある。

分類・形態：殻は紡錘形、薄質、無色透明で光沢がある。殻高6mm、殻径3mm。殻口縁は半月形、薄い。今回、ヤマボタルガイに同定したが、学名の種が淡褐色の殻を持つものに対して福岡県で発見された種類は無色透明の殻を持つことから、分類に関しては更に詳細な再検討が必要である。

ヤマボタルガイ属は寒帯・亜寒帯系種で、日本で

は北ヨーロッパ、北アメリカを原産地とするヤマボタルガイが本州中部から北海道にかけて散在的に生息することが知られていた。西日本では更新統の化石が山口県、鹿児島県から報告されており、福岡県で現生種が発見されたことは本種の分散や種分化を考察するうえで重要である。

分布：（県内）志摩町

（県外）北海道、本州（長野、伊豆諸島）。化石 秋吉台、喜界島の完新統、更新統

生活史・生態・生息地：乾燥地の小灌木の落ち葉の下に生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

キセルガイモドキ

有肺目 キセルガイモドキ科 Enidae

学名：*Mirus reinianus* (Kobelt, 1875)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：県内各地の山地で生息が記録されたが、近年生息地、個体数とも減少している。

分類・形態：殻は中型、紡錘形でやや膨らみ、キセルガイ類に似るが右巻。殻口は卵形で、肥厚し、反転する。

分布：（県内）福岡市早良区野河内、篠栗町（小浦一の滝左岸、若杉山）、新宮町立花山、北九州市小倉

南区（平尾台、溝川原、青龍、千仏鍾乳洞駐車場上）、添田町英彦山、甘木市古処山、矢部村御前岳、久山町柳原、古賀市（鬼王、清滝）、宗像市城山、若宮町（犬鳴山、縁山畑 巖島神社）

（県外）本州、四国、九州

生活史・生態・生息地：林の中の小石や落ち葉の下に生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

ヒロクチコギセル

有肺目 キセルガイ科 Clausiliidae

学名：*Reinia variegata* (A. Adams, 1868)

カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：本種は全国的に最も絶滅傾向にあるキセルガイの一種である。県内での分布は局所的で、個体数も少ない。

分類・形態：殻は殻高9mm程度と小型。やや膨らんだ紡錘形で、螺層は6層と少ない。殻表は茶褐色。殻口はやや大きく、卵形。

分布：（県内）福岡市中央区（大手門、福岡城跡、

西公園）、玄海町（鐘崎、鐘崎織幟神社）、大島村沖ノ島

（県外）小笠原諸島、伊豆諸島、本州～九州

生活史・生態・生息地：林の中の小石や落ち葉の下に生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

アメイロギセル

有肺目 キセルガイ科 Clausiliidae

学名：*Mesophaedusa viridiflava* (Boettger, 1877)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：四国西部から九州中南部の山地に特有のキセルガイである。

本種の生息は樹林の自然度が高いことを意味し、良好な環境が破壊された場合、急激に個体数が減少することが予想される。

分類・形態：殻は中型（殻高3cm程度）。紡錘形で螺層はよく膨らむ。

分布：（県内）甘木市古処山、古賀市（鬼王、谷山、

愛宕神社）、若宮町（芳賀入る、犬鳴山山麓、西山登山道）、宮田町千石、篠栗町（小浦一の滝左岸）

（県外）四国、九州

生活史・生態・生息地：林の中の小石や落ち葉の下に生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅰ類（福岡県）

タカハシベッコウ

有肺目 ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

学名：*Nipponochlamys takahashii* Kuroda & Habe, 1969

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：本種は福岡県を模式産地とし、福岡県とその周辺だけの固有種である。県内各地から生息の報告があるが、密度は極めて低い。

分類・形態：殻は小型、殻径6mm、殻高3.6mm程度。螺塔は低い、丸みを帯びた円錐形。殻表は平滑で光沢があり、淡褐色、半透明。臍孔はやや広い。体層は上下面とも膨れる。

分布：（県内）福岡市早良区野河内、中央区平尾、

篠栗町（若杉山、高尾薬師堂下、小浦一の滝右岸）、新宮町相島、大島村大島岩瀬、津屋崎町楯崎、岡垣町海蔵寺、北九州市小倉南区（平尾台、溝川原、市丸）、添田町（英彦山、南岳麓）、筑紫野市大根地山、若宮町犬鳴山山麓、香春町（殿町、須佐神社）

生活史・生態・生息地：林の中の落ち葉の下に生息。

（松隈）

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ツシマケマイマイ

有肺目 オナジマイマイ科 Bradybaenidae

学名: *Aegista trochula* (A. Adams, 1868)

カテゴリー: 準絶滅危惧 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 本種の分布域は対馬, 長崎市などに局限されている。県内では福岡市で最近発見されたが, 分布域, 個体数とも極めて小さい。

分類・形態: 殻は中型, 平低な円錐形。体層周縁角は鋭く, 毛状の殻皮を具える。

分布: (県内) 福岡市中央区谷, 西公園

(県外) 長崎県対馬 (模式産地), 長崎市

生活史・生態・生息地: 落葉の下や植物の葉上で生活する。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ヒゼンオトメマイマイ

有肺目 オナジマイマイ科 Bradybaenidae

学名: *Trishoplita collinsoni hizenensis* Pilsbry & Hirase, 1903

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 五島列島を模式産地とし, 甌島, 熊本県, 福岡県で生息が確認されている。県内ではただ一度粕屋郡で採集された記録がある希少種である。県内での個体群密度は極めて低く, 分布が局限されていると考えられる。

分類・形態: 殻はやや小型, 低い円錐形で, 臍孔が開く。周縁上に褐色帯がある。殻表には顆粒状の彫刻がある。

オトメマイマイ属の分類が混乱していることから, 福岡県産の個体を本種に同定することには異論もある。

分布: (県内) 久山町犬鳴山山麓

(県外) 長崎県五島列島宇久島 (模式産地), 熊本, 鹿児島

生活史・生態・生息地: 不詳。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

カタマメマイマイ

有肺目 オナジマイマイ科 Bradybaenidae

学名: *Lepidopisum verrucosum* (Reinhardt, 1877)

カテゴリー: 準絶滅危惧 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: これまで群馬県から広島県, 高知県へかけて散在的に分布することが知られていた。今回の調査で九州から初めて発見された。これまで知られている国内各地の生息地は極めて散在的であり, 今回確認した生息地もまた面積的に大変限定されている。個体数も極めて少ないことからごく近い将来絶滅する可能性がある。

分類・形態: 殻は小型で, 螺塔はやや高い。縫合は深く, 各螺層はよく膨らむ。殻表には一面に特徴的

な鱗片状殻皮が規則的に配列している。

分布: (県内) 志摩町

(県外) 本州 (広島, 三重, 静岡, 神奈川, 東京, 長野, 群馬), 四国 (高知, 徳島)

(国外) 朝鮮半島

生活史・生態・生息地: 川原の草地の石の下や, 乾燥地の小型の常緑広葉樹下の落ち葉の中に生息。

(松隈)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

ニセマツカサガイ

イシガイ目 イシガイ科 Unionidae

学名: *Inversiunio reiniana yanagawaensis* (Kondo, 1982)

カテゴリー: 準絶滅危惧 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 柳川市を模式産地とする二枚貝である。国内の分布は局所的であり、各産地とも規模は比較的小さい。個体群の規模が小さいため環境の変動は直ちに絶滅へつながる可能性がある。

分類・形態: グロキディウム幼生は亜三角形の有鉤子幼生 (Anodonta 型)。殻頂は殻長の前方4分の1程

度の所に位置する。殻後縁はわずかにくぼむ。

分布: (県内) 柳川市ニッ川水路, 三橋町蒲船津ニッ川水路, 朝倉町堀川水路

(県外) 本州 (岡山), 四国 (高知)

生活史・生態・生息地: クリークの砂泥底。

(澄川・本多)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

カタハガイ

イシガイ目 イシガイ科 Unionidae

学名: *Pseudodon omiensis* (Heimburg, 1884)

カテゴリー: 準絶滅危惧 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 県内では三井郡で1956年に採集されただけである。分布域が限定されており、開発や生活排水の流入で絶滅が危惧される。

分類・形態: 殻は薄く、膨らみはやや弱い。黒褐色で、細かい成長線があり、後背部にやや強い分岐肋

がある。内面は真珠光沢があり、主歯は三角形で強い。後側歯はない。

分布: (県内) 大刀洗町春日

(県外) 本州~九州

生活史・生態・生息地: 砂泥底にすむ。

(澄川・本多)

絶滅危惧 I 類 (福岡県)

マゴコロガイ

マルスダレガイ目 カワホトトギスガイ科 Dreissenidae

学名: *Peregrinamor oshimai* Shoji, 1938

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 模式産地福岡市東区箱崎浜は埋立で干潟が消滅し、マゴコロガイは絶滅した。博多湾内では室見川河口に干潟があるが、アナジャコの調査では本種の生息は確認されていない。有明海では三池港および長崎県の諫早湾で確認されている。

豊前海では曾根干潟での生息が確認されたが、開発に伴う環境の変化により影響を受ける恐れがある。

分類・形態: 殻長13mm, 殻高6mm程度と小型, イガイ

形で薄質。殻頂は前端にある。靱帯は平坦な筒状靱帯で、両殻の間に沈む。殻表は平坦で、殻皮が発達する。套線は湾入しない。

分布: (県内) 福岡市東区箱崎 (現在は絶滅), 有明海三池港海水浴場, 曾根干潟

(県外) 瀬戸内海および九州の内湾

生活史・生態・生息地: 内湾の潮間帯の砂泥底に深い巣穴を掘るアナジャコの腹面に足糸で付着する。

(松隈)

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

ヒロクチカノコガイ

アマオブネ上目 アマオブネガイ科 Neritidae

学名：*Neritina (Dostia) violacea* (Gmelin, 1791)

カテゴリー：なし（環境庁），日本本土では絶滅寸前，琉球列島では危険（WWFJ）

生息状況・危機の状況・選定理由：かつては博多湾，玄界灘，有明海など県内各地で見られたが，今回の調査では豊前海および有明海沿岸でしか発見されず，分布域が次第に狭まっている。

分類・形態：殻は螺層が急激に広がる。イシマキガイと生息域が一部重なるが，イシマキガイより河口近くに分布し，ヨシ群落内の止水中などに見られる。

分布：（県内）福岡市（樋井川河口，多々良川河口），津屋崎町渡，大牟田市（隈川河口，黒崎），吉富町

（昭和，延命），柳川市（沖端，番所塩塚川番所橋），大和町西津留矢部川津留橋

（県外）本州から南西諸島

（国外）インド・太平洋に広く分布

生活史・生態・生息地：河口汽水域の礫や護岸ブロック，棒杭などの側面，ヨシ群落内の小さな水たまりの中などに生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

イシマキガイ

アマオブネ上目 アマオブネガイ科 Neritidae

学名：*Clithon retropictus* (Martens, 1879)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：かつては福岡市早良区室見川河口，中央区黒門川，北九州市若松区岩屋，豊前市松江など玄界灘，響灘，周防灘，博多湾の各河川で普通に見られたが，生活排水などによる河川の汚染により各地とも個体数が減少している。特に，博多湾に注ぐ河川では絶滅している。生息が確認された河川はいずれも中小河川で，個体群の規模も小さい。

分類・形態：殻は球形，螺塔は小さく，体層は丸く，大きい。厚い殻皮上には縫合下に特に顕著な成長脈

が現われる。黒地に三角形の小斑がある。蓋は石灰質，半月形。殻高2.5cm，殻径2cm程度。

分布：（県内）二丈町（福吉東川，大入，佐波，深江橋北），志摩町（師吉夫婦橋，野北桜井川河口），前原市加布里神在川，福岡町西郷川，玄海町釣川，岡垣町波津漁港小溝

（県外）本州中部以南

生活史・生態・生息地：河口から若干遡った川岸や川の中の礫の側面。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

アツブタガイ

Patellogastropoda目 ヤマタニシ科 Cyclophoridae

学名：*Cyclotus campanulatus campanulatus* Martens, 1865

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：県内各地で生息が記録されているが，近年，生息地や個体数が減少した。

分類・形態：殻は低い円錐形，殻径1.3cm程度と小型。殻表は茶褐色，平滑で光沢があり，周縁下に濃褐色帯をもつ。殻口は円形。蓋は石灰質で厚い。

分布：（県内）福岡市早良区（野河内，石釜），中央区大手門，宮田町千石，宗像市（吉留八所宮，平

山平山天満宮，猿田豊日宮），篠栗町（若杉，若杉山登山口，高尾薬師堂下），北九州市小倉南区志井

（県外）本州，九州

生活史・生態・生息地：林の中の小石や落ち葉の下に生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

アズキガイ

原始梁舌目 アズキガイ科 Pupinidae

学名：*Pupinella rufa* (Sowerby, 1864)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：分布は散在的で、生息地の規模は比較的小さい。近年、宗像市や糸島郡など新たな生息地が発見された一方、英彦山や香春岳など以前報告されていた産地では生息が確認されていない。生息地の多くで環境の悪化が進行していると思われる。

分類・形態：殻は紡錘形、殻質厚く、堅固。殻表はアズキ色。殻高1.2cm、殻径0.6cm。殻口丸く、肥厚し、前溝、後溝がある。蓋は丸く、角質、同心円状

の成長線をもつ。

分布：（県内）志摩町小金丸、宗像市吉留八所宮、新宮町立花口、北九州市小倉南区呼野、添田町英彦山、香春町香春岳、矢部村御側

（県外）本州中部～九州、対馬、種子島、屋久島

（国外）朝鮮半島南部

生活史・生態・生息地：小灌木の落ち葉の下や地表、下草の茎に上っている。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

オオタニシ

原始梁舌目 タニシ科 Viviparidae

学名：*Cipangopaludina japonica* (Martens, 1860)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：かつては県内各地で見られたが、現在は太宰府市から久留米市へかけての筑後川中流域に限られるようになっている。

分類・形態：体層に弱い螺肋を巡らしマルタニシより幾分角ばる。特に、幼貝では顕著に角ばって算盤珠形。螺層は7階、各層はマルタニシほど膨らまない。

分布：（県内）太宰府市大佐野貯水池、山川町蒲地山池イモジ川（鯉養殖池）（殻内に稚貝を持つ親貝）

（県外）本州～九州。佐賀県鳥栖市八軒屋（宝満川を挟んで久留米市と向かい合う）

生活史・生態・生息地：貯水池、農業用クリークなどに生息。

（澄川・本多）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

ツブカワザンショウ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Assimineidae

学名：*Assimineea estuarina* T. Habe, 1946

カテゴリー：なし（環境庁）、危険（WWFJ）

生息状況・危機の状況・選定理由：県内での分布は響灘、有明海沿岸に限られて狭く、生息環境も感潮域の一部に局限されている。

分類・形態：体層に4帯をもつ。外形はカワザンショウガイに似るが臍孔が開く点で異なる。

分布：（県内）周防灘葦島、行橋市辰下今川中州、

有明海（柳川沖端、大牟田市黒崎）

（県外）本州～九州

生活史・生態・生息地：河口のヨシ群落の泥土の表面やヨシの茎の上、河口の防波堤や岩礫地のマガキやフジツボの間で生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

アズキカワザンショウ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Assimineidae

学名：*Pseudomphala latericea miyazakii* (T. Habe, 1943)

カテゴリー：なし（環境庁），危険（WWFJ）

生息状況・危機の状況・選定理由：福岡県を模式産地とする貝である。有明海沿岸の固有亜種であり，生息環境が潮間帯上部のヨシ群落に限定されていることから，環境の変化の影響を受けやすい。

分類・形態：殻は卵円錐形，赤色。体層が殻高の4分の3を占め，殻口はクリイロカワザンショウ，オオクリイロカワザンショウより大きい。臍孔は閉じ，周縁に角がある。

分布：（県内）筑後川河口（模式産地），柳川市（筑後川河口，沖端川河口，佃町塩塚川番所橋上流右岸，塩塚川河口右岸干拓），大和町中棚町矢部川津留橋上流右岸，塩塚川河口，大牟田市黒崎

（県外）九州（有明海沿岸）

生活史・生態・生息地：河口のヨシ群落の泥土の表面やヨシの茎の上。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

オカミミガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名：*Ellobium chinense* (Pfeiffer, 1854)

カテゴリー：なし（環境庁）危険（WWFJ）

生息状況・危機の状況・選定理由：本種はかつては，志摩町野北，福岡市西区（今津，姪浜小戸），中央区（樋井川，荒津），東区（箱崎汐井浜，和白），玄海町釣川河口，岡垣町汐入川河口，北九州市曾根干潟，柳川市（沖端川河口，塩塚川右岸），大和町矢部川河口，大牟田市黒崎隈川など県内各地の河口のヨシ群落に生息していたが，現在は博多湾（瑞梅寺川河口），豊前海（曾根干潟），有明海（柳川市沖端川，矢部川，塩塚川）で確認されるだけである。瑞梅寺川を除き，これら産地では比較的大規模な集団が見られるが，生息範囲が汽水域高潮帯のヨシ群落に限られるため，護岸工事や河川改修により寄州や中州が無くなった所では急激に個体数が減少し，絶滅した。

分類・形態：殻は楕円形，中型（殻高34mm，殻径16mm），厚質。殻表は全面に小顆粒の螺旋脈がある。

体層は大きく，殻高の5分の4を占める。内唇下部に1歯，軸唇に1歯をもち，外唇内側は平滑。我が国に分布するオカミミガイ科中では最大の種類であり，成貝では他種との区別は容易である。幼貝の殻形はナラビオカミミガイ幼貝に似るが，ナラビオカミミガイでは殻表が平滑で，小顆粒の螺旋脈を欠くことから区別される。

分布：（県内）福岡市西区瑞梅寺川河口，北九州市曾根干潟，柳川市佃町番所塩塚川番所橋，大和町西津留矢部川津留橋付近

（県外）東京湾，伊勢湾，瀬戸内海，九州

（国外）台湾，揚子江口，海南島。模式産地は中国
生活史・生態・生息地：汽水域高潮帯のヨシ群落のヨシの根元や泥土の上。冬季はヨシ群落の礫や流木の下，海苔ひび保管場の古竹の下などで生活する。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

マキシジコミミガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名：*Laemodonta monilifera* (H. & A. Adams, 1854)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：日本から台湾、東南アジア、メラネシアにかけて分布するが、生活圏が潮間帯上部の礫間に限られているため生息域が狭く、国内での分布は散在的である。県内では、津屋崎町恋の浦で生息が確認されているだけである。

分類・形態：殻は膨れた紡錘形、黄橙色。殻頂部はややとがる。殻高5mm。殻質は厚く頑丈。内唇に2歯、軸唇に1歯、外唇に2歯をもつ。殻口は狭く、成貝では外唇が肥厚する。殻表は螺溝を刻む。臍孔はない。

ヘソアキコミミガイは外形、殻口の歯の数など本

種に似るが、縁が角立った臍孔が開く点で区別される。ウスコミミガイ、クリイロコミミガイは外唇の歯状突起は1本のみである。

分布：（県内）津屋崎町恋の浦

（県外）本州、四国、九州

（国外）台湾、フィリピン、メラネシア

生活史・生態・生息地：潮間帯上部の礫間や石垣のすき間の小石と砂の間に生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

ウスコミミガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名：*Laemodonta exaratooides* Kawabe, 1992

カテゴリー：なし（環境庁）、危険（WWFJ）

生息状況・危機の状況・選定理由：潮間帯上部の礫間にすむが、県内での生息の確認は局所的で個体数も少ない。全国的に見て情報の少ない種類である。

分類・形態：殻は紡錘形、殻頂部はやや細くとがる。殻高7mm、殻径4mm。内唇に2歯、軸唇に1歯、外唇に1歯をもつ。殻表はやや強い規則的な螺溝で覆われる。殻表は薄茶色。

マキシジコミミガイは殻口が本種より狭く、外唇に2歯をもつ点で異なる。クリイロコミミガイは次体層以上の螺層が膨らみ、殻頂部が細くとがらず、殻表が褐色である点で異なる。また、ウスコミミガ

イの殻頂が通常保存されているのに対して、クリイロコミミガイでは一般に侵食されている。

分布：（県内）玄界灘、響灘（波津）、福岡市西区今津橋、行橋市辰下今川中州

（県外）本州中部以南、四国瀬戸内側、九州

（国外）朝鮮半島南部（釜山）

生活史・生態・生息地：やや外洋に面した磯や磯浜、河口の潮間帯上部の礫間や壊れた石垣の小石の間、あるいはヨシ群落の礫の間に生息。ツブカワザンショウと同所的。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

ハマシイノミガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名：*Melampus castaneus* Muelheld, 1816

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：これまで二丈町福吉，志摩町（福浦，芥屋，野北），福岡市西区（今宿，生松原，能古島也良岬，姪浜小戸），中央区（地行，樋井川），福岡市，津屋崎町，響灘で採集の記録があるが，今回の調査では志摩町福浦で生貝が2個体採集されただけである。かつて能古島也良岬で多産したと言われるが，最近では生息が確認されていない。ほかの産地はいずれもごく小規模な生貝の確認か，海岸に打ち上げた死殻での確認であった。博多湾内など都市周辺では潮間帯上部の礫間という生息地の減少，都市化に伴う環境の汚染により絶滅の危機に瀕している。今回生息が確認された志摩町では生息地が極めて小規模で，個体数が少なく，些細な要因で容易に絶滅することが危惧される。

分類・形態：殻は小型（殻高13mm，殻径8mm），紡錘形。殻表は平滑で光沢がある。殻色は薄茶色，しば

しば縫合下および体層下部に幅の広い濃褐色帯をもつ。内唇下部に3歯，軸唇に1歯，外唇内側に6，7歯をもつ。

殻形はキヌカツギハマシイノミに似るが，キヌカツギハマシイノミは縫合下に8本内外の螺旋状細脈をもち，殻皮を被り，殻表に光沢を欠くことから，平滑な殻をもつハマシイノミガイと区別される。

分布：（県内）志摩町福浦。これまで記録のある産地については再調査する必要がある。

（県外）本州～九州，南西諸島

（国外）台湾，中国大陸沿岸

生活史・生態・生息地：河口，入江などの飛沫帯岩礁の樹木下の崖の礫間，高潮帯の海藻など漂着物下や岩礫下に生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

カシノメガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名：*Allochroa pfeifferi* (Pfeiffer, 1859)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：玄界島や津屋崎町付近で分布が確認されているが，情報は少ない。生息地が潮間帯最上部に限られるため分布が局所的で，個体群の規模が小さいため，環境の変化を受けやすい。

分類・形態：殻はやや細長い雨滴形で殻頂部がとがる。殻高7mm，殻径4mm。殻口の高さは殻高の2分の1～5分の2。内唇に2歯，軸唇に1歯，外唇内側に1，2歯をもつ。殻表に螺旋状脈をもち，縫合下と螺層中央

上部に幅の広い褐色帯がある。光沢が強い。

分布：（県内）福岡市西区玄界島，津屋崎町恋の浦，神湊磯

（県外）本州～沖縄

生活史・生態・生息地：外洋に面した岩礫地の潮間帯上部のカキの間など直射日光が当たりにくい所にすみ，干潮時にはい出る。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

ナギサノシタタリガイ

有肺目 オカミミガイ科 Ellobiidae

学名：*Microtralia acteocinoides* Kuroda & Habe, 1961

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：県内では津屋崎町付近で分布が確認されたが、生息地が潮間帯最上部に限られるため分布が局所的で、個体群の規模が小さい。本種に関する情報は少ない。

分類・形態：殻はごく小型（殻高4mm，殻径2.2mm程度）で回転楕円体（ラグビーボール形）。殻質薄く，半透明。殻表は平滑で光沢がある。内唇中部に1歯（弱い），下部に1歯，軸唇に1歯を有し，外唇内側は平滑。

分布：（県内）津屋崎町（恋の浦，京泊）

（県外）岩手，熊本県苓北町富岡曲崎先端の湿地（模式産地）

（国外）釜山

生活史・生態・生息地：潮間帯上部の底状に張り出した岩の下の礫間や，やや外海の砂地の礫の下にサツマクビキレ，オオウスイロヘソカドガイなどとともにすむ。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

スナガイ

有肺目 スナガイ科 Chondrinidae

学名：*Gastrocopta armigerella* (Reinhardt, 1877)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：今回の調査で志摩町で生息が確認されたが，分布範囲は極めて狭く，個体数もわずかであった。生息地の規模，個体群の規模とも小さく，近い将来絶滅へ向かう可能性がある。

分類・形態：殻は紡錘形，白色。殻高2mm，殻径1mm。殻口縁は反転し，内唇に2歯，軸唇に2歯，外唇に3歯をもつ。

分布：（県内）福岡市早良区西新町修猷館高校，志

摩町（芥屋，小金丸）

（県外）北海道，本州（群馬，東京，神奈川，静岡，愛知，三重，和歌山，広島），四国（愛媛，高知），九州（大分，熊本，鹿児島），沖縄

生活史・生態・生息地：乾燥地の小灌木の落ち葉の下，あるいはハマユウの枯葉にミジンマイマイとともに生息。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）

キュウシュウナミコギセル

有肺目 キセルガイ科 Clausiliidae

学名：*Euphaedusa tau subaculus* (Pilsbry, 1902)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：本県では福岡市とその周辺で生息が確認されている。九州固有のキセルガイであり注目を集めているが，県内での分布は局所的である。

分類・形態：殻は細長い紡錘形で，殻高1.5cm程度。殻表は黄褐色から緑褐色で光沢がある。殻口は洋梨形。

分布：（県内）福岡市中央区（荒戸，大手門，城内，

大濠公園福岡簡易保険事務センター裏，谷），東区箱崎筥崎八幡宮，宇美町宇美八幡宮，福岡町北原潮見丘，玄海町神湊，宗像市光岡，水巻町鯉口，筑紫野市武蔵寺

（県外）九州全域

生活史・生態・生息地：石垣やがれきのすき間，礫や落ち葉の下などで生活する。卵胎生。

（松隈）

絶滅危惧Ⅱ類 (福岡県)

ナカヤママイマイ

有肺目 ニッポンマイマイ科 Camaenidae

学名: *Satsuma nakayamai* Kuroda & Minato, 1975

カテゴリー: 絶滅危惧Ⅰ類 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 本種は平尾台とその周辺の固有種。平尾台では生息数は少なくないと考えられるが、生息地が本県北部に限定されることから、近い将来絶滅が危惧される種類となる可能性がある。

分類・形態: 殻はやや小型、殻径16mm、殻高11.5mm程度。螺塔はやや高く、平滑で光沢がある。本州西部から九州に分布するシメクチマイマイに似るが、

色帯を欠くことで区別される。

分布: (県内) 香春岳 (模式産地)、北九州市小倉南区 (平尾台、溝川原、市丸、平尾、平尾神社、牡鹿洞付近、千仏鍾乳洞)

(県外) 福岡県の固有種

生活史・生態・生息地: 石灰岩地帯で生活。

(松隈)

絶滅危惧Ⅱ類 (福岡県)

トンガリササノハ

イシガイ目 イシガイ科 Unionidae

学名: *Lanceolaria grayana cuspidata* Kira, 1959

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 1999年の調査により遠賀川水系、筑後川水系で分布が確認されたが、各地とも生息密度は低く、ややまれな種類である。県内では河川の汚染により減少傾向が強い。

分類・形態: 殻は前後に細長い。殻後端がササノハガイよりとがり、背縁と腹縁の平行な区間が短い。ササノハガイでは後背縁が上方に少し張り出して丸みを帯びるのに対して、トンガリササノハでは直線的、あるいは上方にやや反る。

分布: (県内) 大刀洗町春日、水巻町 (杵 (えぶり)、立屋敷)、直方市 (植木山田川高速道路南、植木今村)、遠賀川 (中間市役所前、中間小学校横)、三橋町蒲船津二ッ川水路、柳川市沖端

(県外) 本州中部以南~九州

生活史・生態・生息地: 流れのある川の岸近く、水深1m前後の砂底にすむ。

(澄川・本多)

準絶滅危惧 (福岡県)

ヤマタニシ

Patellogastropoda目 ヤマタニシ科 Cyclophoridae

学名: *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1860

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 本種はかつては県内各地で見られたが、近年は生息地、個体数とも減少した。

分類・形態: 殻は殻高2cm程度。円錐形で、螺層はよく膨らむ。殻表は淡褐色で、細かく途切れた濃褐色帯がある。蓋は円形で角質。

分布: (県内) 篠栗町 (普門院手前、普門院~奥登山口、若杉山金剛頂院、小浦一の滝左岸、荒田高原)、久山町 (猪野、天照皇太神宮)、北九州市小倉南区

(平尾、千仏鍾乳洞駐車場上)、香春町 (山下町延命地藏、殿町須佐神社、殿町神宮院への交差点、神宮院)、添田町九大英彦山実験所、甘木市古処山 (登山道入口、鳥居付近、登山道、三角杉)

(県外) 本州~九州、屋久島

生活史・生態・生息地: 林の中の落ち葉の下に生息。

(松隈)

準絶滅危惧 (福岡県)

マルタニシ

原始梁舌目 タニシ科 Viviparidae

学名: *Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860)

カテゴリー: 準絶滅危惧 (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 現在のところ県内各地の水田やその周辺の水路で普通に見られるが、南米産の外来種スクミリンゴガイが大繁殖し、水田などでの生態的地位が取って代わられつつある。

分類・形態: 螺層が著しく膨れる。縫合は括れる。緑がかった黒い殻皮をもつ。蓋は黄褐色。殻高6cm, 殻径4.5cm。

分布: (県内) 福岡市西区今津, 中央区舞鶴公園-大

濠公園境, 城南区油山山麓, 久留米市御井町高良山, 高田町渡瀬, 新宮町立花山山麓, 津屋崎町塩浜, 遠賀町今古賀, 北九州市八幡西区野面, 太宰府市高雄, 筑紫野市山口バス停下, 三橋町西鉄柳川駅付近, 柳川市 (豊後屋, 村山, 沖端), 志摩町小富士 (県外) 本州~九州

生活史・生態・生息地: 水田やその水路に生息。

(松隈)

準絶滅危惧 (福岡県)

カワザンショウガイ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Assimineidae

学名: *Assiminea japonica* Martens, 1877

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 現在のところ県内各地に生息。今津, 和白, 津屋崎内海では特に個体群の規模が大きく, 河口付近のヨシ群落内の泥底に普通に見られる。しかし, 生息地が汽水域のヨシ群落に限定されるため, 今後の開発により絶滅へ向かう可能性がある。

分類・形態: 殻は円錐形, 小型 (殻高約8mm), 黄褐色。体層に0~4本 (縫合直下1本, 体層中央付近2本, 殻底部1本) の褐色帯がある。臍孔は開かない。蓋は角質, 少旋型。

分布: (県内) 二丈町 (大入, 深江河口), 前原市 (加布里泉川河口, 千早新田), 志摩町 (御床松原, 船越), 福岡市西区 (瑞梅寺川河口, 姪浜小戸),

早良区室見川河口, 中央区樋井川城西橋付近, 東区 (宇美川箱崎小横, 多々良川河口, 香椎浜男, 和白), 福岡町 (西郷川河口, 今川河口), 津屋崎町 (渡, 内海クリークヨシ群落, 塩浜), 玄海町釣川河口, 豊前市松江, 遠賀町西川堤防, 大和町中棚町矢部川津留橋上流右岸, 柳川市沖端川河口, 大牟田市 (黒崎, 隈川下流右岸)

(県外) 本州~九州, 南西諸島

(国外) 朝鮮半島南部

生活史・生態・生息地: 河口のヨシ群落の泥土の表面やヨシの茎の上, 礫や流木の裏。

(松隈)

準絶滅危惧 (福岡県)

クリイロカワザンショウ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Assimineidae

学名: *Angustassiminea castanea castanea* (Westerlund, 1883)

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 現在のところ、生息地の規模は小さいが、玄界灘、博多湾に注ぐ川の河口付近の礫間やヨシ群落の流木下に普通に見られる。しかし、生息地が潮間帯最上部に限定されるため、今後の開発により個体数が減少する恐れがある。

分類・形態: 殻は小型、高い円錐形。殻高約5mm。縫合の下に細い1螺溝がある。臍孔は開かない。蓋は角質、少旋型。口吻、頭部、足の側面が一様に黒い色素で覆われる。

サツマクリイロカワザンショウは外形がクリイロカワザンショウに酷似するが、頭部・腹足部の大部分は色彩を欠き、側歯と縁歯は著しく細長い。

殻が微小で彫刻など硬質部の分類形質に乏しいため、軟体部の解剖学的特徴などに基づき分類を再検討する必要がある。

分布: (県内) 二丈町 (大入, 深江河口), 前原市 (加布里泉川河口, 千早新田), 志摩町 (御床松原, 船越), 福岡市西区瑞梅寺川河口, 中央区 (地行, 西公園海岸), 東区 (箱崎汐井浜, 和白), 玄海町 釣川河口, 福岡町今川河口, 津屋崎町内海, 芦屋町 (大君遠賀川河口中州, 山鹿), 遠賀町西川 (県外) 本州~九州

生活史・生態・生息地: 河口の高潮線付近の礫や流木の裏に見られる。

(松隈)

準絶滅危惧 (福岡県)

オオウスイロヘソカドガイ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Assimineidae

学名: *Paludinella tanegashimae* (Pilsbry, 1924)

カテゴリー: なし (環境庁)

生息状況・危機の状況・選定理由: 県内では玄界灘、響灘の岩礁地帯飛沫帯の礫の下に普通に見られるが、分布域が岩礁と陸の境目に限定されて大変狭いため、護岸工事や海岸道路により生息場所が破壊される危険性が高い。

分類・形態: 殻は淡橙黄色、淡茶褐色。螺塔が高く、体層の周縁がごく弱く角張る。臍孔は狭いが明瞭に開く。臍孔の周囲に弱い角がある。殻高8mm, 殻径5mm。ヘソカドガイは一回り小さく殻高6mm, 殻径4mm程度。螺塔はオオウスイロヘソカドガイより低く、体層は丸い。螺層は赤褐色、平滑で光沢がある。臍孔は本種より広く明瞭で、周囲に強い角がある。ウスイロヘソカドガイは種子島以南に分布し、殻は黄

褐色。

分布: (県内) 玄界灘、響灘、二丈町 (鹿家, 串崎, 深江大崎鼻), 志摩町 (野辺, 芥屋, 姫島), 福岡市西区 (能古島, 能古島也良岬), 中央区西公園海岸, 東区 (多々良川河口, 和白, 志賀島)

(県外) 本州, 九州。鹿児島県種子島 (模式産地)
生活史・生態・生息地: 開放的海岸の林へ連なる磯の飛沫帯の中礫間, 巨礫回りや拳大の石の下に, キュウシュウクビキレガイと共存する。ヘソカドガイはオオウスイロヘソカドガイより若干上方, 飛沫帯から磯に面した樹木の下に落ち葉混じりの礫の下にすむ。

(松隈)

準絶滅危惧（福岡県）

フトヘナタリ

吸腔目 ウミニナ科 Potamididae

学名：*Cerithidea rhizophorarum* A. Adams, 1855

カテゴリー：なし（環境庁），危険（WWFJ）

生息状況・危機の状況・選定理由：現在のところ県内各地で生息が確認されるが，生息域が潮間帯上部のヨシ群落とその周辺に限られるため，開発により絶滅へ至る可能性がある。

分類・形態：殻は細長い円錐形。縦肋と螺肋が交わり格子状。殻口外唇は反転する。

分布：（県内）玄界灘，博多湾，周防灘，有明海。二丈町深江河口，福岡市西区瑞梅寺川河口，古賀市

花鶴川河口右岸，津屋崎町内海湾奥，行橋市祓川香尾橋上流左岸

（県外）本州～九州

生活史・生態・生息地：内湾や河口のヨシ群落の泥土の表面やヨシの茎の上。礫混じりの泥土上にも生活する。シマヘナタリ，クロヘナタリよりも生息できる環境は広い。

（松隈）

準絶滅危惧（福岡県）

オキギセル

有肺目 キセルガイ科 Clausiliidae

学名：*Vastina vasta vasta* (Boettger, 1877)

カテゴリー：なし（環境庁）

生息状況・危機の状況・選定理由：県内各地で生息が知られていたが，近年生息地，個体数とも減少した。

分類・形態：殻は中型の紡錘形で，やや膨らむ。殻口は白色で，肥厚して反転する。

分布：（県内）前原市水無，福岡市早良区野河内，脊振山，篠栗町（小浦一の滝左岸，普門院手前，若杉山登山口，高尾薬師堂下，普門院），新宮町（立花口，六所神社），古賀市（鬼王，谷山，米多比の神社，清武），福岡町許斐山，宗像市（吉留八所宮，平山平山天満宮，大穂馬頭観音），岡垣町海蔵寺，

北九州市小倉南区（市丸，平尾，平尾台千仏鍾乳洞，溝川原，貫山），添田町英彦山，甘木市古処山，若宮町（芳賀入る，犬鳴山山麓，原の前，米多比～薬王寺，縁山畑巖島神社），宮田町千石，矢部村（釈迦岳，御側），添田町（九大英彦山実験所，英彦山中岳山頂南側，英彦山南岳山頂，英彦山虚空蔵入口），嘉穂町古処山山頂北側

（県外）九州

生活史・生態・生息地：林の中の小石や落ち葉の下に生息。卵生。

（松隈）

(文献)

- 波部忠重, 1942. 日本産カワザンショウガイ科. *Japan. Jour. Malac.*, 12(1-2): 32-56, pls. 1-4.
- 福田 宏・山下博由・藤井暁彦, 1999. 佐賀県太良町田古里川河口の貝類相. *佐賀県自然史研究*, 5: 45-57.
- 福田真杉, 1938. 日本産カタヤマガイ属の分類. *Japan. Jour. Malac.*, 8(3-4): 147-154.
- 本多庚午, 1994. 遠賀川の貝. 福岡貝類同好会集会記録, 1994-6 (平成6年10月30日).
- 石井久夫, 1991. 九州, 柳川市郊外の淡水貝. *Nat. Stud.*, 37(12): 135-137.
- 環境庁, 1991. 陸産・淡水産貝類. 日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック, 無脊椎動物編. pp. 117-209, 財団法人日本野生生物研究センター.
- 環境庁, 1993. 第4回自然環境保全基礎調査動植物分布調査報告書 (陸産及び淡水産貝類). 165 pp., 環境庁自然保護局.
- 環境庁, 2000. 00, 04, 12 無脊椎動物 (昆虫類, 貝類, クモ類, 甲殻類など) のレッドリスト見直しについて. <http://www.eic.or.jp/kisha/200004/66554.html>
- 河辺訓受, 1992. 邦産オカミガイ類について. *かきつばた*, (18): 6-12.
- 紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131 pp., たたら書房, 鳥取.
- 小林照幸, 1998. 死の貝. 238 pp., 文芸春秋, 東京.
- 近藤高貴, 1982. Taxonomic revision of *Inversidens* (Bivalvia: Unionidae). *Japan. Jour. Malac.*, 41(3): 181-198.
- 黒田特米, 1958. 日本及び隣接地域産陸貝類相 (3). *Japan. Jour. Malac.*, 19(3-4): 273-294.
- Kuroda, T., 1958b. On the more species of *Assiminea* from Japan. *Japan. Jour. Malac.*, 20(1): 16-22.
- 岡本正豊, 1977. 福岡県産貝類目録訂補資料 (未定稿). 25 pp.+ 2 pls., 岡本, 柏市.
- Sugiura, S., 1933. Study on biology of *Oncomelania nosophora* (Robson), an intermediate host of *Schistosoma japonicum*. *Mitt. Path. Inst. Med. Fak. Niigata*, Heft, 31: 1-18, pls. 1-3.
- 高橋五郎・岡本正豊, 1969. 福岡県産貝類目録. 154 pp.+ 22 pls., 高橋・岡本, 東京.
- 塘 普, 1986a. 筑後川流域における日本住血吸虫病撲滅史. 88 +2 pp., 水資源開発公団.
- 塘 普, 1986b. ジストマとの戦い (生まれ変わる筑後川). 96 pp., 水資源開発公団.
- 魚住賢司, 1998. 福岡町の貝類. 180 pp., 福岡県宗像郡福岡町.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF Japan サイエンスレポート*, 3: 1-181, pls. 1-11.
- WWFJ, 1996. 和田ほか, 1996 を見よ
- 山下博由, 1999. 熊本県熊本市河内町塩屋の塩性湿地の貝類相とその保護について. *九州の貝*, 52: 7-22.